

教 外国史概論Ⅱ

Introduction to Foreign History Ⅱ

MIKI Kenji

MAEDA Tatsumi

三木 健詞

前田 達見

科目ナンバリング：DEC-2-346-04/DIB-2-431-04/DIS-1-351-04/DLP-2-349-04



■授業の目的及び到達目標

本授業の目的は、中学校社会科あるいは高等学校の世界史に係る科目を指導することを前提に、歴史的な見方・考え方を働かせて具体的な歴史事象を通して理解することである。世界史の関わる事象を教える際の歴史的な見方・考え方を理解し、世界史学習の意義を自分なりに表現できることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 茶・砂糖と大西洋経済
18世紀の大西洋経済の特質について、茶や砂糖といったモノに着目して理解する。
- 2 世界史上のフランス革命
世界史におけるフランス革命の位置づけについて考察する。
- 3 イギリス産業革命と世界
イギリス産業革命の契機や影響を、グローバルな動きと関連付けて理解する。
- 4 国民国家の形成
19世紀後半期の欧米諸国における国民国家形成の動きを相互に比較して考察する。
- 5 世界史の中の日本の「開国」
日本の「開国」を世界の動向と関連付けて同時代的に理解する。
- 6 岩倉使節団と世界
岩倉使節団の動きに着目して、世界史の中の日本の針路について考察する。
- 7 帝国主義と人種主義
第一次世界大戦にいたる帝国主義の時代の動向を理解し、人種主義が台頭した背景について考察する。
- 8 20世紀前半のファシズム
20世紀前半の世界の動向と社会の特質について、ファシズムの台頭に着目して考察する。
- 9 第二次世界大戦と世界史
第二次世界大戦の終結までの動きを、大戦前の世界史の動向と関連付けて理解する。
- 10 戦後世界の形成とアメリカ
アメリカが戦後世界をリードする過程をたどりながら、大国の役割について考察する。
- 11 科学技術と世界史
科学技術の進歩がもつ二面性について、具体例を挙げて考察する。
- 12 ESDの視点と世界史
ESDの視点を取り入れた世界史の学びの意義を理解し、環境や民族共生などの実践例を通じて授業を構想する。
- 13 後期の学修の総括
学期試験と試験後のフィードバックとしての解説を通して、世界史学習の意義について各自が考察する。

■授業の方法

講義だけでなく、ワークや発表などの演習を取り入れて授業を進める。世界史学習の基本的事項の理解にとどまらず、世界史を教える立場から歴史的な見方・考え方を働かせて考える場面を多く設定する。

■予習・復習

予習：授業で扱う単元内容を、教科書を事前に読んで確認・整理する。

復習：毎回の授業内容を整理し、授業で取り上げる場合のポイントをまとめるとともに、追究課題を記入する。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

学期試験60%、予習・復習を含む課題や演習などの授業中の取組状況を40%として、それらを総合的に評価する。演習では毎回事後に解説を行うとともに、試験後もフィードバックとして解説を行う。

■教科書・参考書

教科書：高等学校教科書「世界史探究」、中学校教科書「新しい歴史」（東京書籍）

参考書：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』、その他は授業中に指示する。

■関連する科目

「社会科・地理歴史科教育法」「国際政治史」「国際関係論」「日本外交史」

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

講義を担当する教員は、いずれも東京都立高校で地理歴史科の教員として世界史を指導した実績を持っている。また世界史の学習教材や教員向けの指導資料などを執筆・作成した実績も持っており、こうした実績を当該科目での指導に活かしている。